

大東亞建設調査資料(講演)

セ レ ベ ス 島 事 情

(昭和 17 年 6 月 12 日大東亞建設調査委員會に於いて)

柴 田 鐵 四 郎*

本夕は古藤先生の御話に依りまして、本席御集りになられました學界の權威の方々の前で御話致しますのには、私の材料は甚だ不適當なもの許りかと存じまして、一應は、實は御辭退申上げたのでありますけれども、必ずしも自分達に適應する材料から話さぬでも、何でも宜しいから来て呉れ。斯う云ふ御話でございましたので、或は御參考にならないかも知れませぬけれども、その點は豫め御含み置きを願ひまして、私の話を聽いて戴きたいと存じます。それで私はセレベス島に就て御話し致しますが、御話申上げます前に便宜上私の來歴を 2,3 分間程御話申上げて置く方が都合が宜しいかと存じますので、ちよつと御耳を汚したいと存じます。私は明治 44 年に最初の南洋視察旅行を致しました。大正 5 年に蘭領印度のセレベス島に事業の關係を持ちまして、爾來今日に及んでをります。今回は去る 1 月 8 日に海軍省から囑託を受けまして、戦後の占領地帯、これは主としてセレベスであります。経済方面の顧問としてやつて貰ひたい。斯う云ふ話を承りましたので、直ちに出發致しました。2 月 14 日に某地點に到達致し、そこに約 4 日程滞在致しまして、それからセレベスのメナドの占領されました後に、メナド附近の某地點に到達致しました。それから南部セレベスの或飛行場の占領作戰に従軍致しまして、更に又皆様御承知の如く 2 月 9 日に南部セレベスの首都マカッサルの占領にも従軍致し、戦前、戦後兩様に涉り一般情勢の比較を現場に於きまして審かにする事を得た譯であります。

最初に戦争當時の情勢から占領後の情勢に互りまして、一通り大局的の情勢を御話申上げ、順を逐ふて段々詳しく御話を申上げて見たいと存じます。又御聴講の方々に成るだけ適合しますやうに、土木方面のことをなるべく拾つて御話申上げたいと存じますが、その點は私として自信を持ちませぬので、御役に立つかどうかを非常に心配をしてゐるやうな次第であります。

最初或飛行場を占領致しました時迄は、經濟關係の如きことは、まだ軍に於きましても、或は私の立場と致しましても考へる餘地も何もなかつたのであります。2 月 9 日にマカッサルを占領致しまして、更に地方に潜伏してゐた殘敵を殲滅致し、是等を全部俘虜と致します迄の間は全く戦闘員と同様の立場に置かれて居りまして、私の本職である經濟關係、經濟建設と云ふやうなものを考へる餘地は全くなかつたのであります。占領直後、當時はどう云ふ状態であつたかと申しますと、セレベス島に於きましては、マカッサルが中心でありますから主として同地を中心として御話し申上ります。

最初私共が敵前上陸に従軍致しまして、上陸致して見ますと、無論或場所で交戦は行はれましたけれ共も初めから逃げ支度をして、さうしてマカッサルの重要な個所、詰り日本に取られたら日本を強くするだらうと云ふが如きもの、要するに物資を成るだけ焼拂ひ、建物の如きもの、さう云ふものゝ貯藏してありますものは悉く爆破準備が戦前に施されて居り、相當に破壊されてをりました。丁度私共が 8 日の夜中にマカッサルに入る瀕端の曲り角に參りました頃、マカッサルの市中に猛火が炎上致しまして物凄い有様を呈してをりました。それが凡そ日

* 南太平洋貿易株式會社專務取締役

暮の 8 時頃でありました。それから丁度夜中にマカッサルを少し南下致しました所に到達しまして、それで直ちに敵前上陸を取行された譯であります。さう致しますと先程申上げましたやうに、敵軍は大體に於て逃支度を整へて、成るだけ日本に與へて爲になりさうな物に火をつけ、或は破壊致しまして逃出したのであります。そこでマカッサル市中に於ては市中戦と云ふものはなかつたのであります。さうして或る一部の隊はマカッサル附近にあります飛行場占領に向ひまして、此處では相當の激戦が行はれたさうであります。私はこれには従軍致してをりませぬ。處がマカッサルに上陸致しまして一番困りましたのは、夜になりますと電氣が點かない、水道は全部止つてゐる。直ちに電氣會社に行きまして原動力のある所を調べて見ますと、モーターの一部分の重要な箇所を持逃げして、何處かに隠匿してゐるらしく思はれる。それで段々附近の住民などを狩集めて調べて見ますと、確かに敵軍の指圖で持逃げたと云ふことがはつきり分つたのであります。

その経路をよく迎ひまして、隠匿されてゐる場所を探すことに懸命に努力を拂つたのであります。處がいゝ按梅にその経路が段々はつきりして參りまして、マカッサルの理事官をしてをりましたブウヘルと云ふ男を捕へて、人道問題を引張り出して彼を責め説いたのであります。一方電氣が點かないでも日本軍が少しも困らないと云ふことを彼等に示す必要があるといふので、軍が持つてゐる小さなモーターを持出して、軍の最高司令部の居ります家には電氣を直ちに點けて見せ、斯くの如く自分達は一向電氣が點かないでも困らぬ。併し和蘭人としてお前達が考へなければならぬことは、一般民衆と云ふものが、この爲に如何に困つてゐるかと思ふことを考へて見なければならぬ。斯う云ふ公共設備に對しては直ちに復舊すると云ふことにお前達も協力してもいい筈であるから、その積りになつて協力したらどうか。現にお前達自身も非常に困つてゐるではないか、と云ふやうなことを再三再四説明して協力を求めました。處が成る程それはさうであるから協力すると云ふことになりまして、私共が俘虜に致しまして利用した譯であります。このブウヘルと云ふ理事官に依つて其の重要な部分の機械が手に入り、丁度それを 8 日目に取付けまして、初めて電氣が點いたし、水道も初めて流れ出したと云ふやうなことで、彼此 1 週間と云ふものは電氣もない眞つ暗闇の都に不十分な井戸水を利用して住んでをつた譯であります。さう云ふ状態でマカッサルを占領致しまして、さうしてマカッサル市中の治安を維持する爲に治安維持會と云ふものを設立致しました。これには向ふの住民の中の有力者並に華僑の有力者を集めたり、其他色々の角度から色々の有力者を集めて治安維持に努めました。その結果案外速く治安が維持されまして、戦争を避ける爲に避難してをりました住民達も、テラホラ 10 日乃至 20 日位のうちにはマカッサル市に復歸するやうな者が見えて來た情勢でありました。

此處で私は特に皆様に御報告を申上げて置きたいと思ひますのは、よく戦線の將兵の勞苦と云ふことを内地で云つてをりますが、私も其れに敬意を表しながら想像は致して居りましたけれ共、今度初めてこの勞苦を目の當り目撃し、又自分でも體驗致しまして非常に感激致しました。此御話中にも將兵諸君の何事に對しても身を以て當ると云ふ努力と、勞苦の様を思ひ浮べながら御報告申上げる次第であります。先づ司令官を初め將兵に至る迄、もう朝早くから殆ど時間の制限もなく起出しまして、熱心に自分の受持つ仕事に携つて、さうして戦闘をやるのであります。其間の食べる物は麥の混つた御飯に梅干を入れたのを 2 つ位握つて御馳走になるのであります。これで非常な勞働をさせられる。司令官を初め皆受持の役割に對して全く寢食を忘れての勤務振であります。兵隊などは急を要する仕事にぶつかりますと、是又寢ずに仕事をするのであります。非常な炎暑の中で晝間は働いて置いて、夜の仕事迄一生懸命にやつて、さうして休息する場所も普通の家の中で寢られる譯ではありませぬ。自動車の中に寢る人があり、或は自動車の下に莫菴みたいなのを敷いて寢るやうな始末で、總てが國家奉公の尊

い一念あればこそであります。さう云ふことをやりながら、戦闘が終つて一定の家に戻りますれば晝夜の別なく全員活働其ものであります。さうして各部所の責任の立場にある人は晩御飯が済みますと、連絡會議と云ふものを行います。この連絡會議には自分の受持つ範圍の仕事の経過を各自報告致しまして、各部門の連絡を取る譯であります。この連絡會議が終りますと、直ぐそれを土臺にして翌日の仕事の打合せを繼續して行ひます。併して最後に司令官から決裁を下されて翌日やる仕事が出来上るのであります。これに基いて翌日又遲滞なくやつて行くと云ふことを繰返して、少しの油断もありません。勿論日曜、祭日、等と云ふものは思ひもありません。連日連夜斯う云ふことの連續でございます。これが戦闘してゐる方々の勞苦の一端であります。なかなか之を實行することは、食べ物でももう少し滋養分でも喰はせて貰へば宜しいやうでありますけれども、占領しました當時、食べ物は十分でない状態に於きまして、非常な粗食を致しながらこれだけのことをやるのでありますから、實に戦線の將兵の勞苦と云ふものが成る程と如實に身にしみたまはれて、特に皆様のお耳に達して置きたいと思ひ付いた譯であります。

それから私共は 2 月 9 日にマカッサルを占領しましてから、段々市中の治安は維持されて行きますが、敵の主力は奥地の某地點に根城を構へ、日本軍に對抗すると云ふ態勢を整へて居つた譯でありますから、この討伐戦を済まさないければ、マカッサルを占領したからと云つても枕を高くして寝る譯には行かぬと云ふので、この討伐戦が行はれた譯であります。この討伐戦を行ふに當りまして、マカッサルから彼此まづ直ぐに行きますと 200 km 位しかない所に敵は居るのでありますけれども、方々の橋を毀しまして、さうして自分達の居る所には日本軍が入つて來れないやうに、謂はゞ度城を築いたと云ふやうな形で蟠居してゐる、斯う云ふ形になつたのであります。そこでそれに入つて行つて敵を殲滅するには、どうして入つて行つたらいいかと云ふことを研究するのに、非常に軍としては苦勞されたやうであります。結局第一回の討伐戦は、彼此 2 週間近い日數と、それから行軍里程が約 700 km と稱されてゐる位距離が長かつたのであります。要するに方々に迂迴しながら敵の居る場所に攻め込んで行つた譯であります。さうして此處にも屢々戦闘が行はれましたが、最後の大きな戦闘は 1 日で済まして、その戦闘した翌日はもうそつくり敵の陣地を占領してしまつて、降伏する者は降伏する、逃げる者は逃げる、それを更に追ひ掛けて捕虜にすると云ふやうな掃蕩戦をやつた譯であります。併し逃げた一部の敵兵は又集團して一つの勢力を作り、更に奥に入りまして陣地を構へた譯であります。これは日本軍に對抗すると云ふよりは、寧ろそこで英米が近くやつて來て、もう一遍日本から奪回して、その時に初めて我々は浮かび上るのだと云ふやうなことを期待しながら待機の状態を取つたのであらうと考へられます。さう云ふやうな戦闘の行はれます時に、私は一々附いて行つて、向ふの士官の中の有力な奴を捕へますと、直ちに訊問致しまして、さうして日本軍の御參考に供する爲に、色々の角度から色々なことを訊いて、今後の行動に資する爲に努力致したのであります。どうも彼等は今申上げたやうなことを期待しながら待機してをつた姿勢ではなからうかと斯う思はれるのであります。そこで第二の陣地の方は色々な曲折を経ましたけれども、後でそつくり降伏することになり、全部捕虜に致しまして、マカッサルに之を全部收容した次第であります。此處で初めて南部セレベスと云ふものゝ截定が期せられた譯であります。

茲にセレベス島の戦前の行政状態とそれから經濟状態と云ふものを結び付けて、セレベス島の内容が經濟的觀察からどう云ふものであつたか、行政的觀察からどう云ふものであつたかと云ふやうなことを少しく御話させて頂きたいと思ひます。

元來インドネシア、これは全面的にさうだらうと思ひますが、私はセレベスを土臺として御話申し上げますが、セ

レベス島の民衆はそもそも戦前に既に和蘭人を嫌つて居つたと云ふ風に可なり廣い範圍に考へられて居つた様であります。今後の行政を行ひ、今後彼等を統率する上に於て非常にこれが参考になり、又興味のある問題ではなからうかと思はれるのであります。そこで私は冒頭に申し上げました長年の経験から、又彼等に澤山の友人を持つて居ります立場から、彼等の本當の内心と云ふものを御話申上げて見ますと、彼等は決して和蘭人と云ふものを嫌つてをつたのではないのであります。寧ろ和蘭人に對しては相當の敬意を表してをつたのであります。併し澤山の中には不平を漏す者もあつたのでありまして、その不平と云ふものを吟味して見ますと、至つて漫然たる不平であります。どう云ふ所が悪くて何故悪いかと云ふことをはつきり不平を言ふ者に訊いて見ても肯定の出来る様な答は殆んど聞けないのであります。具體的にこれを申しますと、どうも税金が非常に高い、自分達は決して働かないのに税金を澤山納めなければならない、和蘭人が勝手なことをして、他人の領土に入つて来て税金を取立てる。斯う云ふことが我々の不平とする處である、と答へます。或は又南北兩方共に自治領があるのであります。この自治領方面の例へば王様とか或は 郡長とか云ふ者、これの不平を訊いて見ますと、自分達は此の土地に於ては知識階級である。その我々には俸給は幾ら幾らしか拂つて呉れない。併しながら和蘭から若い大學卒業生がコントローラになつて(コントローラと云ふのは警察部長か内務部長とか云ふ者に該當致します)、斯う云ふ者が入つて来て自分達の政治を監督する。この監督に来る若い官吏は自分達の給料の2倍、3倍取るが、之は差別待遇だと云ふので不平の一つに數へて居ります。併しこれは何れも内容を検討して見ますと、只今申しました前者の方は、恐らく誰があそこを經營するに當りまして、今迄取られてみただけの税金を取らないと従前の程度の設備を維持して行けなひではないかと思ひます。それから後者の方、詰り俸給の不平の如きは、私共が公平に比較評價して見ましても、大して不平を言ふ材料にはならない場合が多いのであります。さう云ふやうなことが積りまして、日本の旅行者諸君などがちよつと向ふで話を聞かれると、成る程和蘭人に對しては悪感を持つてゐると考へられた場合が多かつたろうと思はれます。又さう云ふ風に報道されてゐることも屢々仄聞してゐるのであります。或は雑誌などでも拜見してをります。

それから一方日本人に對しては非常に宜しい。土人は皆日本人に對しては非常な親しみを持つて宜しいのであると云ふことを聞いてをります。又斯う云ふ風に報道されてをるので。處がこの方も深くこれを研究して見ますと、彼等は必ずしも日本人を渴望してをつた人種ではなからうと私は思ふのであります。唯一方の和蘭人の方は、非常に長い間巧妙な平和な政治を行ふて來ましたが故に、彼等は平和に飽きて、變化のない政治に飽きが來てゐると云ふ位のことはあらうと思ひます。一方に日本に對して非常に親みを持つて宜しいと云ふのは、見方に依つては親しみ所ではなくて、或は自分達と同じ程度の人種であると云ふ、謂はば馬鹿にしたやうな親しみと云ふやうにも考へなければならぬと思ひます。そこで兎に角日本人に政治を行つて貰つたらどんなに宜からうかと云ふ風に渴望してゐるのではないのでありまして、今は戰勝國としての日本に彼等が表立つて不平だとか、或は叛抗的態度を取る譯はありませぬ。だから非常に良く見えてをります。これは當然なことでありまして、假りに日本を少し位嫌つてをつた奴でも、斯う勝ち抜かれて、占領されて、その和蘭人が全然捕虜になつて見る影もない姿になつた。一方は揚々として街を濶歩してゐると云ふことになると、當面日本人でなければならぬと云ふ風に見えるのは當然だらうと思ひます。

併し彼等は戰勝國日本に對して非常に大きな期待を掛けてゐることも事實であります。今に日本の政治に於て昔の和蘭がやつてゐて呉れた政治よりも、自分達を善導してくれる。もつと良い政治が行はれるであらうと云ふことを非常に期待して、今日は待機をしてゐるやうな状態であります。そこでその期待に十分と言はない迄も、或

る程度期待に副ふ様な統率が若し出来なかつたと致しますならば、彼等は必ず昔の和蘭時代の状態と云ふものと思ひ出して自分の現在の生活状態とを比較致しまして、改めて見直すだらうと思ひます。更に日本に對して今度は不平を持つやうなことは當然だらうと思ふのであります。

然らば和蘭時代の税金はどの位取つてをつたかとお申しますと、南部の方が約 358 萬 2 千人、北部の方が約 120 萬、合計致しますと 472 萬 2 千人の人口がある譯であります、年額約 1280 萬ギルダー納めてをります。

この税金を納める住民共の生産物方面、所謂經濟關係、これはどう云ふ風になつてゐるかとお申しますと、南部セレベスの方は米作が主要産物でありまして水田が 26 萬 8 千町歩余あります。それと畑地が約その 8 割位の面積を有つてをります。その水田から米がどの位とれてゐるかとお申しますと、99 萬 4.5 千 t ばかり、これは一反當り約 1100 kg ばかりに該當すると存じますが、これを更に日本流に分り易く申しますと、1 反歩に對して約 6 斗 8 升乃至 7 斗位の收穫になつてをります。これだけの米と、次に玉蜀黍が相當出來まして、米を食つてゐない土地は玉蜀黍を食ひ、又米食して居る所でも混食をして居ります。斯くして南部セレベスは食糧の自給自足をしました上に、米は平均年額 56 000 t、玉蜀黍は約 45 000 t 乃至 50 000 t の余裕を持つて居ります。此余裕米は米の不足地帯即ちボルネオ、北部セレベス、ゴロンタロ、ハルマヘラ、サンギル群島等に移出されて居つたのであります、北部セレベスでは更に不足しますので、佛印、泰等の外米を年額約 22 000 t 輸入致しまして食糧を補足して居つた次第であります。併してボルネオ其他セレベス圏以外の地に移出されて居ります量が約 36 000 t 餘になつて居りますから、北部セレベス及屬島で移輸入する量は平均凡そ 42 000 t になります。其他の雜物産が 26 種目許り、其總價格が戰前凡そ 10 458 397 盾ありまして、之を以て冒頭に申述べました税金 8 845 900 盾を支拂ひますと、1 612 497 盾となり、之が一般住民の購買力となる譯であります、人口 3 522 000 に割當てますと 1 人當年 50 仙足らずとなり、此外勞働等より得る収入が彼等の購買資金となる譯であります。

北部セレベスの方は殆んどコブラの生産地であります。この生産状態と云ふものはセレベス島西海岸のドンガラ附近から始まりまして北部セレベス島の北端を曲がり、トミニー灣一帶並に灣外に出まして、ルーウオクよりコロネダレ附近迄、更にベレン、バンガイ群島トミニー灣内のウナウナ群島、タルナテ、ハルマヘラ及サンギル群島等が一面の産地でありまして、此海岸線の延長距離は蜿蜒 2 千數百哩に上るものでありまして、人口も此海岸線に散在して居る譯であります。

斯くの如き地理的環境下に生活する住民の最も必要とするものは申上ぐる迄もなく海運であります。陸上は非常に起伏の多い島であります爲に、南北貫通しました自動車道路の如きものなどは御座いません。又今後建設するにも相當困難であり、經濟的價值も疑はれます。差當り當分はどうしても海運の便に係つて貨物の運搬をし、或は人事の交流を圖る。斯う云ふことをやりませんければ經營の出來にくい所であります。和蘭領時代には K.P.M. と云ふ汽船會社が島内沿岸航路をやりまして、總トン數 2 千乃至 3 千數百 t の船を 6 艘配船致してをります。又補助機關として 60 t 位から 120 t 位のモーター船を配船致して汽船の補助を致してをります。そこで北部のコブラなどはその機關に依つて集貨され、輸出されてセレベスの經濟が營まれてをつたのであります、歐洲大戰が始まりました爲め歐洲主要地にコブラの輸出をするにが出来なくなつて參りました。これは歐洲航路が杜絶しました爲めでありまして。そこで和蘭政府はセレベス島のコブラが運ばれなくなれば北部セレベスの納税、購買の源泉がなくなるのみならず、尤も直接生活に重要な輸入の米の支拂ひが出来なくなり、結局は南部にも非常な悪影響を與へると云ふ。要するに同島の經濟上より見たる特異性を考慮しまして救濟買付を始める事となり、一昨年 11 月 1 日から實施されたのであります、この救濟買付に依つて、攻略直前に買はれて居りましたコブ

ラの平均相場と云ふものは100kgに付て3ギルダー62セントと云ふ値で買はれてをります。さうしますとこの値段で同島に生産される約322,228tのコブラを賣つたと致しますと、11,064,653盾となり、之より税金4,024,425盾を差引ますと、7,640,228盾残りますが、前述致しました輸入米42,000tの代金凡そ420萬盾を支拂ひますと、大體3,440,228盾の餘裕を残す事となり、即ち他の必要物資購買力を有する事となり、之を人口1,200,000人に割當てますと、1人當り、2盾87仙許りになりまして南部より稍良き經濟情態の様に見えますが、之を更に詳説致しますれば一般島民は輸出港迄の運賃を負擔せなければなりませぬから、正味の手取額はもつとずつと低下致しまして此コブラの價格では非常に悪い經濟情態であります。即ち蘭印時代と雖も開戦直前は悪かつた譯ですが、過去の平均經濟と云ふものは相當宜敷かつたのでありまして、例へばコブラの平均相場は100kgに付9盾20仙である事から見ても明かであります。そこで目下の情勢は攻略直前の情態迄もつて行く事は容易な業でありませんから、一方に期待を持たせながら經濟復活の實を擧げる事にありますが、之には現状に即應し得る程度の船舶を配船する事に有り、本問題は不可缺の事であり、出来るだけ戦前の状態に接近する程度に於て實行しながら、それで戦争の爲に致し方ないのであるから我慢しなければならぬではないかと云ふことを十分に認識させまして、悪い状態を相當年月引張つて行かなければならぬではないかと思ひます。

斯くして赫々たる戦果の下、一般住民の知識程度に應じ、或は實情に鑑み、之等の按配を誤らない事が最も肝要であり、之即ち戦果を生かす意味でもあるかと存ずる次第であります。それをやりませぬと先程も申上げますやうに直ちに比較をされます。比較をされますと云ふと、必ず當分の間は戦争直前の經濟状態には及びませぬ。その復活し得ない状態に於て彼等を引摺つて行く。之に都合の好いことには、今は戦争であるから仕方がないから悪いのであるけれども、將來は斯うなるのだと云ふ將來のあかしを見せることが必要であり、之が相當大きく彼等を操縦するに役立つと思はれます。之等の點は當局が無論考へて居られる事と深く信じてをりますから、その點は安心でございますけれども、非常に注意すべきことも茲にありますので、少し深入りすぎた様であります。が御参考に御話申上げた次第であります。

それからセレベス島の鑛物資源であります。これは南部セレベスのボニ灣の内にコラカと云ふ港があります。そこから、約107km南下致しますとボマラーと云ふ所がありまして、此處に戦前からニッケルを産出して居ります。これは日本にも相當入つてゐたのであります。この鑛區は戦前相當多量に日本にも輸出されて居たのであります。幸に戦禍を蒙らずして今後役立つ譯であります。それから更にその灣を同じ海岸線を傳はりまして北上しますとマリリと云ふ所があります。此處は元來鑛山地帯として有名な所でニッケルを始め石炭、鐵、銅、鉛等があると云はれて居ります。殊にニッケルの如きは蘭印時代に相當な設備が施された所を占領したのでありますから結構な次第であります。兎に角此處は鑛物資源地帯として有名であります。又ルーウオクとコロネダーレの間は日蘭會商の時に問題となつた石油地帯であります。現在生産されつゝある譯ではありません。唯非常に有望な所として、バンドンの鑛山局邊りに相當な文獻もありますし、具體的に採掘に着手しつゝあつた蘭米系石油會社もあつたのであります。茲には詳説する事を省略致します。

それから北部セレベス、丁度細くなつてをります。非常に北に近い所にトクと云ふ所と、コタブナと云ふ所があります。この2ヶ所には相當の金山がありまして大規模に採掘されてをりましたが、段々引合はなくなつたと云ふので、廢坑になつてをります。その廢坑になりました後を手掘で土人共を或資本家が雇ふて砂金を取らせてをります。これは相當引合ふさうでありまして、可なり出るさうであります。唯大きな事業としてちよつとやれないから事業的に着眼するのはどうかと考へますけれども、兎に角さう云ふ譯で金が採れつゝあるのであります。そ

れから西北海岸の方、詰りメナドの側の海岸線に、メナドから 180 km 位南下致しました所にスマタタと云ふ所があります。此處から又四、五十 km 南下致しました所にパレレと云ふ所がありますが、この間が欠張り鑛物資源地帯でございまして、この邊も相當研究する必要のある所と考へます。又先程ちよつと申しましたルオクと云ふ前のペレン、バンガイと云ふ島、あすこには雲母があります。この雲母は非常に昔からあると云ふことが分つてをりましたけれども、これを曾て事業化する人がなかつた爲に久しく放任されてをつた譯であります。此處に行つて見ますと、此處の王様の王冠は雲母で出来てをります。さう云ふことから何も王様が外國から雲母を輸入して迄も王冠を作つたと云ふことは考へられませぬので、その土地にあると云ふことが早くから判つて居つた譯であります。以上が之迄知られて居りました當地方の鑛物資源の情況であります。

それで私は本夕御集りの各位の御専門の土木方面のことを御話申上げて見たいと思ひます。マカッサルあたりは今度の攻略に依りまして陸上の施設は非常に破壊されましたけれども、幸ひにも有名なマカッサル港灣の大岸壁は少しも毀されてをりません。此處は或は御聴及びか知れませぬが、1 萬ト以上の船が1 度に 8 艘位横付け出来る岸壁があるのであります。それから更にそれとちよつと離れた場所に 5 千ト級の船ならば 5 艘位一緒に繋かれる岸壁がもう 1 つあります。相當立派な大きな港灣設備を有つた所であります。多少痛んでをります點はもう既に改修が成つてゐると思ひます。更に將來この地が海運上非常に重要な中心地帯みたいになつて、岸壁などもよつと増設しなければならぬと云ふ場合に、増設が出来るかと云ふ場合になりますと、その増設の餘地が澤山あると云ふ實に立派な港灣であります。陸上の破壊された状態は、上屋は大概不燃焼物で建てられてありまして、柱の如きは相當大きな鐵柱が立てゝあります。それで周圍並に屋根は亜鉛葺になつたり、或はスレートになつたりと云ふやうな建築物であります。之等は殆んど破壊されて居りまして、一般市民の迷惑や推して知るべしでありまして、蘭人の藥をもつかむの心情が現はれて居り、一般民衆に恨を残して居ります。それで市中の建築物は商店街の如きは餘り木造はございませぬ。大概煉瓦建が多い様です。その煉瓦の上にセメントを上塗致しまして、それを白くペンキで塗つたり、或は石灰の種類で塗つて白くしてをつたりと云ふやうな建物の様式であります。市街地の住宅地の方に入りますと、近代的の建物は煉瓦及コンクリートが多くて、木造は非常に少いのであります。インドネシアの住宅或は華僑の少し下級な人達の住居は木造が相當あります。殆ど木造の方が 8 割を占めてゐると言つていい位に木造の多い所であります。話が少し横道に入りますが、それではマカッサルほどの位の人口かと申しますと、約 10 萬、そのうち白人が千人、華僑が 2 萬人斯う云ふのが戦前の状態でございます。それから奥地の方にずつと入つて行きます道路は全く四通八達と申ませうか、至れり盡せりの立派な舗装道路が縦横に走つて居ります。これは先程ちよつと申落しましたが、南部セレベスブートンと云ふ所がありまして、此處からはアスファルトが出ますから道路を發達させた理由の一つと見て宜敷いでせう。併し根本の理由は、和蘭人が道路に対する非常な知識と誇と、さうして道路の建設に対する興味と申ませうか、道路だけは全く立派なものを造ります。そして河が相當多くて橋の數も非常に多いのであります。この橋もなかなか立派なものがありまして馬鹿になりませぬ。中には河幅 100 m 位のものに素晴らしい釣橋等があります。

全部さうでもありませぬが、兎に角さう云つたやうな代表的な大橋梁があつて、非常に立派な橋が色々な姿に於て架けてあるのであります。重要な幹線のものも殆んど破壊されてをります。これの復舊は非常に長年月を要するだらうと想像されますが、只今の所では當分の間に合はせの爲め、適當な處置が採られつゝあるのであります。

之等を復舊せしむる事は容易な事でないのであります。本部會の御研究や御指導にまつ所があらうと存ずる

次第であります。北部セレベスの方はどうかと申しますと、矢張り橋梁の方もやられてをります。併しながら南部セレベスの如く大きなものはありませぬ。随つてこの方面は大したことはない様であります。それから道路の或場面は非常な大規模に破壊せられてをりますので、この方面の復舊、これは橋に比べますと餘程復舊が樂ではありませんが、今後相當に住民が努力しなければならぬと察せられます。

又マカッサルから北の方に向ひまして約 180 km 程行きますとバレバレと云ふ米の大産地がございます。それから更にそれを少し北上しますとピンランと云ふ所がございますが、このピンランと云ふ所には相當に大きいダムを造りまして、その附近の地勢の少し高い所に水を送り水田の擴張をしようと云ふ計畫を建てた和蘭の置土産があります。之は工事半ばにして今度占領されたと云ふ譯であります。和蘭人のこしらへた設計の内容を見て見ますと、彼此 5 萬町歩位の水田の面積擴張の力を有つてゐるらしく思はれます。又その附近の地域から 5 萬町歩位の水田になり得る所がある様であります。このダムを造りました爲に、それから約 4 km ばかり下流になりますが、そこに一つの落差がありまして水力発電の計畫が建てられてあります。現在据付けようとするタービンは 700 馬力のものを 8 臺取付けようと云ふ準備が出来て居りまして、建物なども立派なものであります。

この計畫の目的はどうかと申しますと、現在バレバレと云ふ所に火力電氣の設備があつて、バレバレとピンランの 2 つの大きな町の電燈並に精米用動力等に送電されて居るのであります。之を水力に取換へ様と云ふのであります。これは今後の經濟工作上相當見逃せない一つの施設であらふと思ふのであります。

更に少しくこれは將來のことに互りますけれども、南部セレベスは比較的小さな面積の中に 359 萬 2 千と云ふ人口があるのであります。即ちバレバレ、ピンラン附近からパロポに線を引きまして、其南下した一帯に大部分の人口が集つて居ります。随つて此附近に各種の製作物が生産されて物資の交流が行はれるのであります。又此附近は大體地勢が平坦でありますので、陸上交通機關の完竣を期するに大電鐵の開設等はどうしても必要であるかと考へられますが、幸に地形に恵まれて居る事等で實現性が充分ある様に考へられます。然も前述の水力と結び附けて一層其感を深う致します。併し然らば水力が足りるかと申しますと、之は無論専門家の検討の必要がありません。現在計畫されて居る発電所附近に相當擴大する余裕がある様であります。然らば今日迄何故其建設が出来なかつたかと申しますと、道路の發達を利用して自動車萬能で來た譯であると思ひますが、和蘭政府等でも追々彼の永久の發達と共に考慮しつゝあつたのではなからうかと推察されます。

斯様な次第でありますから實現の時は之を海運と結び付け物資の交流を圓滑安價に致しまして、消費者の爲に便利を與へてやりますことなどは、住民を指導して行く上にも有效なことではないかと考へます。併しこれは即刻急を要することではありませぬから、將來の一つの目標としてさう云ふことも經濟機構の中に織込んで置くことも無駄ではなからうと思ふのであります。

まあ兎に角土木など申しますと、どうも私には話の材料を引出すのに非常にむづかしいので此邊で河岸を變へまして、當面物動の非常に要求して居ります所の棉花のことに付て少しく御話申上げて見たいと思ひます。棉花はセレベスには出来るのであります。それではどう云ふ風にして棉花を作つたらいいかと申しますと、これは企業で棉花栽培をやると云ふことは相當危険なことだらうと思ふのであります。現在の生産地たる印度とかその他の生産地に於きましても、危険の分散を最も多くしなければならぬと云ふことが原則になつてゐるやうであります。それで危険の分散を多くやると云ふことは、家庭農業として各農家に分擔栽培させることが一番危険を分散させる理由でありまして、セレベスの如く土地の余裕のある所では先づ地積よりは人口を先に勘定して見る必

要があると思ふのであります。セレベス島の人口が 472 萬 2 千と云ふことになりますと、この人口が 5 人 1 家と致しますれば、彼此 94 萬戸餘の戸數がある譯であります。この中で農家に非ざるものを假りに 14 萬餘戸を引いて 80 萬戸を農家と致します。さうするとこの農家の中でも棉花栽培に適せざる地勢の所に住んでゐるのもありますし、又或は事情の許さない者もありませうから、是等の戸數を約 10 萬戸差引きまして、セレベスの棉花を栽培し得る者は 70 萬戸と見積りますれば、この農家が本來の食糧農産物その他の従来自分等の勞力で生産してをりましたものに妨げない有閑勞力で栽培しますと云ふと、1 戸當り平均 2 反歩位が適當ではないかと思はれます。この 2 段歩を有閑勞力に依つて、今迄やつてゐない仕事を 1 つ殖やすと云ふことは、彼等に取つては相當の負擔でありますけれども兎に角 2 段歩やらせる。これには單なる獎勵丈では不充分かも知れませんから、場合に依つては強制栽培或は命令栽培の如き方法を講じ、或は時局を認識せしめて彼等自身の生活向上慾を啓發し指導する宣傳の方法等を用ひます。併し此方法が徹底しました場合 1 農家即ち 2 反歩から、どれだけ收穫出来るかと申しますと、他の經驗等に徴して繰綿 40 斤乃至 50 斤程度と思はますから、70 萬戸から 28 萬擔乃至 35 萬擔と云ふ事になります。若し其の他の寸法、例へば企業的に、或は理存人口の有閑勞力利用に過重の負擔を強要するとか、或は移民を當てにして計畫するとか、色々考へ方はあると思はれますが、之等は何れも實情に適しない事が明かであり、随つてセレベス島の經濟的機構に悪影響を與ふるであろう事が明かでありまして、此意見は無論技術的検討からでなく、技術的検討圈に入る前提としその言はゞ骨子であります。斯く論じ來りますと危険の分散關係と云ひ、人口利用價值と言ひ、どうしても家庭農業を徹底せしめなければなりません、然らば現地の實情は其れがやれるかどうかと云ふ事ではありますが、此破壊されたる後のセレベス島住民は此際自分達も日本の指導の下に何事が經濟開拓をやらなければ、自己の運命に關る位の事は考へて居ります。同時に其指導に期待をかけて居ります。

此情勢は前述致しました中に玉蜀黍の輸出力がある事を申して有りますが、之等は今後の輸送力を考慮します時、棉花に轉向するに勞力と既開墾地利用と云ふ、當面極めて便宜な實情の様であります。之は一例に過ぎませんが、土地は豊富であり、情勢は何事かを待期して居る次第でありますから、要は彼等民心の摑み所を間違ひなく摑めばよいのでありまして、實行に左程困難はないと思はれます。併し若し疊に申上げました勞力問題等に錯覺があつたりしまして、生産量の期待が大き過ぎると危険でありますから期待は内輪の方が宜敷いと思ひます。

要するに本事業は堅實なる方途の下に住民の最も必要とする綿布の自給自足を行ふ事に於て住民を助け、喜ばせ、そうして行政遂行に利用す可きであると信ずるものであります。

次に船腹の問題であります、之は當面も將來も非常に大きな問題であつて、當分困難な現在の状態は解消しないのではないかと思はれます。然るに先程も申上げましたやうに、セレベス島には、絶対に船舶が必要であります。この必要な船舶を非常に困つてゐる中央から只供給を受けると云ふのもちよつと物足りませぬから、蘭印に於きましても小型の船でも宜しいから極力木船の建造をやる。併し現地では機械造ると云ふ譯に参りませんから、機械だけは日本から御世話になつて、船腹緩和の問題に寄與し、一方に船腹緩和の爲め原料の運搬をなるべく避ける方針をとる、避けると云ふよりは緩和しなければいかぬのではないかと思ふのであります。日本が工業國であるから先づ原料國の物を持つて來て、日本でそれを商品にして再輸出をして、原料生産國にこれを供給する。これに依つて工業國を立てゝ行くのだと云ふ原則的の考へ方からのみ南方の經濟を計畫して行きますならば、是は少く共現狀に則せざるものと考へられるのであります。それで出来るだけ容積をふむ原料で現地に於て商品化し得るものは船腹を使用する事を避け、随つて現地に輕工業を起すと云ふ風に船腹の緩和策を講ずるのでな

いと船腹問題が圓滑に參らぬのみならず、現地の住民に光明を感得せしむる有力なる手段にも添はない事になります。何故ならば、彼等は和蘭時代にやつて居つた通りの事では、何の感興も湧かないでせうし、和蘭時代の良い所は踏襲しながら、彼等になる程日本は違ふ、之でこそ期待が出来ると思ふ様な感じを持たせる必要があるからであります。其れには輕工業化に邁進する事等が兩面の情勢に適合して最もよいと思ふのであります。申上げる迄もなく統治と經濟は如斯密接不離の關係にありまして、一番最初に御話しました税金の問題なども、消極的に考へますと、税金を負けてやるのが善政のやうに思はれる。又一部の人は喜ぶか知れませぬが、大局的にセレベスの經濟を考へますと、税金などは寧ろ場合によつては増額しても、或は従前の儘に据置いても、彼等の取得、彼等の消費する方面に非常に便益を與へて、成る程これは有難いと思ふやうなことを彼等に示しつつ今後の經濟工作をやつて行くことが非常に肝要ではないかと考へる次第であります。

色々取混ぜまして一向纏りのない御話を致しましたが、本夕御集りの各位が私と専門を異にする關係上、不適當な部分が多かつたかと存じます。併し粗雑ながら現地諸施設の情况等、簡単に御話の中に織込んで置きましたが、之を經濟方面と御對照下さいまして御參考の資として下さいます様御願ひ致しまして御話を終らせて戴き度いと思ひます。

草間氏何か御質問がありましたら……

問 魚が相當獲れるさうですが、もうそろそろ緒に就いてをりますか。

答 まだ緒に就いてると云ふやうな譯ではありません。或る程度漁船の準備は出来てをりますが、何せ占領直後の事でありまして、民間人が活潑に自分の仕事をやると云ふ状態に行つてをりませぬ。之からそう云ふ事が處理されて行くのでありませうが、それまで大體事業家の方では待機の態勢を取つてゐると云ふのが現状でございます。併しこれは當然近いうちに活潑に仕事出来るやうな状態になるだらうと考へてをります。

問 あの邊の鰹はどの位のものでありませうか。

答 大體まあ色々ありませうが、大きなのは 2 尺 5 寸位もありませうか。鰹と鮪は非常に多いものゝやうであります。最近南洋廳の水産研究の使命を持つた船が巡行した様でありまして、其乗組の中の専門の方が私の所にも寄つて行かれましたが、その話に依りますと、鮪の多いことは他に類例を見ない。これだけの漁撈があるならば誠に心強いと云ふ話をしてをられました。

問 自動車は今何臺位ありませうか。

答 自動車はマカッサル市に約 3000 位あるやうであります、實際は 3000 動いてをらぬやうであります。北部セレベスのメナドに 1000 位あるかと存じます。占領の時に自動車は破壊されてをりますので、現存して居るものは非常に大切にされて居る譯であります。それで現在破壊されてをりますものを 2 臺を 1 臺に纏めて動かすと云ふやうな工作も相當必要だらうと思ひます。或は機械だけ動けば、外側なんかは少し修繕して形を纏めて運搬の助力をすると云ふことが必要であらうと思はれます。

問 土木工事に住民を使役出来ますか。

答 インドネシヤ人は充分使役出来ます。

問 和蘭人がやつてゐたやうに向ふの人を使つてやるのですか。

答 インドネシヤ人の中にも相當土木工事の主腦者があります。これは和蘭人が教へた譯です。さう云ふのが原住民を指導して使つて、勞力の方は間に合せてをつたと云ふのが和蘭時代で、今後もそれが出て來ます。殊に道路工事等には相當馴れてをりまして、その方面では相當の能率を上げてをります。

問 一般には向ふでは晝寝をすると聞きますが、セレベスでもさうですか。

答 住民は餘り規則的にはやりませぬけれ共大體晝寝する方であります。文明國人は健康保持の上から見ますと矢張り晝寝をした方が宜しいのです。それから私だけの體驗を申し上げますと、又他の人も同感の人がありませうが、晝に 30 分位でもいゝ思ひますが、寝た時と寝ない時とは午後の活動力に非常な影響があります。之を習慣的にやる様になりますと非常に寝方が上手になります。私などは大概 30 分晝寝することになつてをりますが、どんな所でも、例へばこんな椅子に倚つて直ぐ寝付ける様になります。これは私だけの話でなくて醫學士からも熱帯の晝寝は健康上良いと云はれて居ります。和蘭人が晝寝する習慣を付けましたことも、和蘭人などに訊いて見ますと、矢張り健康を土臺にしたので、和蘭人は大概 1 時間乃至 2 時間位寝る様です。

問 商店は店を閉ざすと云ふことですが……

答 支那人の小賣商店などは開けてをります。併し大きな店は閉めます。殊に白人の店は全部閉めます。大概 12 時或は 1 時から 3 時頃迄閉めてをりましてそれから幾らか涼しくなりますので、開けて商賣をする譯です。

問 セレベスに森林地帯はまだありますか。

答 相當あります。木材も相當あります。殊にチーク材があります。多いとは言へませぬが相當にございますから之からの利用價値は大きからうと思ひます。

問 道路は大變發達してゐると云ふことでございましたが、アスファルトばかりで、コンクリートは使つてをりませぬか。

答 コンクリートは皆無ではない様ですが餘り使つてをりませぬ大概アスファルトです。

問 御話によりますと、物資の運搬は主に海運を使用してゐると云ふことでございましたが、さう致しますと、今御話のメナド、マカッサルの外にも良い所がございますのですか。

答 メナド、マカッサルは別ですが其他の大小の港灣は大した設備と云ふが如きものはありませぬけれ共、船がよりとしてはどう云ふ所でも大概かゝれると言つていゝ位です。

問 解荷役はどんな風に……

答 解荷役の準備は何處にもしてゐないと云ふことです。そこで和蘭時代に K.P.M. と云ふ汽船會社の方針として僅かの荷物があれば何處でも密せてやる。これは主としてコブラの生産状態が非常に廣い範圍に萬遍なく出てゐると云ふので、餘計に着けてやらないと困るからと云ふのでですね。そして荷役設備のない所が多いのですから荷役する苦力も同時に連れて歩いてをります。それで何處そこに幾らの荷物があると云ふと、例へばコブラで言ひますと、200 俵位のコブラでも寄港してやると云ふ行き方です。それで何處でも荷役が出来てをつたのですが、一般の船は K.P.M. の汽船の様に船に解荷設備をして居りませぬから、現在はマカッサルを除く外は、殆んど荷役は出来ませぬ。北部のメナド等も平素備付てあつたものを 蘭軍が悉く破壊したのですから、之を復興せなければ荷役は出来ない譯であります。それで日本から行つて何か積取をしようと思つても、先づその準備が肝要であります。

問 さうすると海は荒れないのでせうか。

答 海は大體に於て平穩でございます。暴風雨とか颱風とか云ふやうなものは大體ありませぬ。これは蘭領印度全體がさうなのです。それでもまあ強風と云ふ程度のもはあります。其季節は 11 月頃から翌年の 3、4 月頃迄が多い様であります。そうしてメナドの港は防波堤がないばかりでなく、防波堤代用の島にも惠まれて居りませぬから、斯う云ふ所に碇泊してをります船は、強風に襲はれますと逃げなければなりませぬ。さう云ふ程度の

風はあります。

問 潮の差引は相當にありますか。

答 相當にあります。

問 3 米位、そんなにはありませんか。

答 さあ、それ程はありませぬやうです。精々 6 尺位ではないでせうか。

問 米とか農産物の搬出は何を使つてをりますか。土人を使ふのですか。

答 産地から移出港即ちマカッサル、バレバレ或は消費都會地等に搬出しますには先づトラック、水牛車等を土人が操縦して搬出します。

問 船で運ぶと云ふやうなことはありませんか。

答 それはございます。南部セレベスから米の不足地帯に移出します場合どうしても海運の外途がありませぬ。又南部セレベスの領内でも遠距離の地に移出する場合、汽船若くは帆船を利用して居ります。

問 先程マカッサルの人口約 10 萬と仰しやいましたが、その外に大きい所はありませんか。

答 セレベスにはマカッサルを除けば余り大きい所はありません、メナドが約 2 萬 9 千、ゴロシタロ、トンダノ、テングアン等が 1 萬から 2 萬程度で、南部の方になりますとスングミナサ、ボンダイ、ワタンポーネ、バレバレ、ピンラン、パロボ、ワタンソツベン、シンカン等の王領都市があります。之等はどれも其れ自體大きな都會ではなく、1 萬から 2 萬 5 千位のものと思ひますが、何れも謂はゞ屬領見た様な風に 2 千、3 千位の小町村が附近に澤山附屬して居りまして、其等の町村長とでも申す可き者を先方では、矢張りラジャー（王）と稱して居ります。多きは 50 も 60 も此種の町村が含まれて居ります。斯様な次第ですから彼等の言ふラジャーなるものは南部セレベスでは何百とあります。併し實際はさう澤山あるのではないので、王様に屬した家來で、唯自分の存在を大きく見せる爲に小さな所でも王と稱してゐる習慣が残つてをる譯であります。北部セレベスの方は王様制の所もありますが、大部分は郡長村長制が布かれ、和蘭政府が最も巧妙に王様を其儘残したり、群長制にして接近度を増したりして利用した事が明かで、非常に學ぶ所があると思ひます。又概して知識程度の高い部分を群長制にし、低級な方が王様の尊稱の儘残されて居る様であります。是などは味ふ可き點と思ふのであります。併して群長制で彼等がかち得る最高の地位はマヨールと稱しまして群長の最も名譽ある者でありまして、印度ネジャ人の最高地位であります。

問 それ等の小さいものゝ衛生設備などはどんなものでせう。

答 都會の文化住宅になりますと、衛生設備は相當行届いてをります。一般住民の住宅はちよつと外から見ました所は相當綺麗で、生垣でも作つて相當廣い庭を取つて、然も綺麗に清掃されて、そこにはダリヤとか其他の草花等格好よく植ゑて、如何にも衛生状態も良さうに思はれますけれども、中に入つて見ますと、一番私共が困りますのは、建物に尾籠な話ですけれども便所が付いてゐない。彼等は山の中に行くとか、川のある所は川の中ですと云ふので、相當立派に見受けられる建物でも用便の設備がないのですから、自然不潔にならざるを得ません。それから北部セレベスは土地が非常に起伏が多い爲に排水の便が良いので、簡単な排水設備で清潔が期せられるのでありますが、兎に角現状は餘り感心出来ません。南部の方は土地が平坦である爲に排水關係は北部より手数がかゝる譯であります。殊に前にも申し上げました様に人智が低いのですから現状は北部に比較しましても良いとは申されません。此等の方面の事は之から印度ネジャを指導する上に衛生教育と共に設備も施す事に努力する必要があると思ひます。

問 マカッサルとか主領である 2 萬前後の町村の飲料水はどう云ふ状態ですか。

答 大きな都市は大體濾過された水道で御座いますが、2 萬位の都市で水道のない所は井水を使つて居ります。

問 病氣はどんなものでせう。

答 マラリヤ、デング、疫痢等で他にそんな悪質のものはございません。

問 住民の家では皆豚なんか飼つてをりませんか。

答 向ふは宗教の關係がございまして、豚を飼へる宗教の人も存在してをりますけれども、飼へるのは回教徒です。これは絶対に豚は飼ひませぬし、随つて此人種の存在する所豚は居りません。けれどもクリスチヤンの居住地には相當居ります。殊に華僑が居りますから、その附近は一層豚が多いです。回教徒とクリスチヤンは1つの町村に混住して居る所もありますが、中には全々回教徒だけ居住して居る村もあります。

問 家庭に便所はないとしまして、村落に共同便所なんかはございませんか。

答 共同便所と云ふものは殆どございません。都會にはございますけれ共餘り便利ではありません。之は一例ですがメナドの共同便所と云ふのは非常に面倒なもので市役所で經營してをりまして便所に行きますと1 錢か 2 錢金を出して便所に入ります。それだけの準備をしなければ間に合ひませぬので、愈々尾籠なことになつたと云ふ話も聞きませぬけれども、番人にちやんと届出て、金を持つて行つて、それぞれの手續をして、愈々鍵を開けて入れて呉れるのです。さう云たやうな便所がメナドにはあります。けれども一般部落にはないやうであります。

問 それで私領代當時の臺灣のことを思ひ出したのですが、豚が垂流しを宜しく處分して呉れたやうに思ふ時代があつたのですが、何かそれと關係はございませぬでせうか。

答 田舎に入りますと非常にそれがあるのです。私は農園の開發をやつた経験も有つてをりますが、農園内の粗末な設備の中や、農園附近の田舎の住民が山の中に行つてやります。豚は皆放し飼で圍ひをしてをりませぬものですから、彼等の好物は無論處理して呉れる譯であります。

草間氏 皆様を代表して講演者に御挨拶を申し上げます。今晚は柴田さんには、御忙しい時間を特にこの委員會の爲に御割き下さいまして、特にセレベスに關して種々多方面の御指示を下さいましたことを厚く御禮申し上げます。マレーとかビルマとか、或はジャバの知識は方々で聽く機會を得まして伺ひましたけれども、セレベスに付ては私共平素知識が不十分で、そのことを啣ちつゝあつたのでありましたが古藤先生の御紹介に依りまして、明治 4 年以來非常に長く向ふに御住ひになり、且つ又經濟上、貿易上深く御研究になりました蘊蓄を傾けられまして、我々委員會の爲に、或は經濟上如何にセレベスの住民を統禦すべきか又は鑛産物に付て、或は水力電氣とか、築港、道路、鐵道などの將來の見透し、棉花その他に付ての非常に詳しい御話をして下さいまして、私共を裨益する所が非常に深くあつたのでございます。尙又後の質問等に於ても色々土木その他のことに付て知識を與へて下さつたことを厚く御禮を申し上げます。皆様の御賛同を得まして、拍手を以て御禮を申し上げたいと思ひます。